

社民党

渡辺みのる通信

● 第 13号 ●

発行日 / 2010年(平成22)10月(9月議会号)
 発行 / 渡辺みのる後援会
 石川町大字北山形字引地1
 電話&FAX 0247-26-6994
 携帯 090-2798-0434



写真説明 昨年、北山形の住民となった陶芸家、江原法雄さんの作品。神奈川県生まれで、愛知県立築業高等専門学校を卒業後、窯元で修行。瀬戸市で築窯独立、飯田市、国見町、石川町と築窯。この間、青年海外協力隊として2年間チェニツァに赴任。今は人々が日常に使用する生活用品を主に作陶しています。

教育委員会が 学校統廃合基本方針を決定

今年の9月定例会は、招集が9月30日で、10月7日まで開催されました。

大きな議案は、平成21年度の決算認定で、すべての会計で黒字となりました。一般会計では2億4千万円の黒字となりました。

一般質問は7人が登壇し、私は「自治センターの現状と課題」「第6次産業化の推進」「小規模学校及び複式学級への支援」について、町長の考えを質しました。

一向に回復しない雇用情勢や若者の就職難、非正規労働や低賃金であえぐ若者・労働者の実態、更に、円高による景気の停滞は拍車をかけています。町から若者が流出し、商店も次々に廃業、農家も離農寸前です。

学校統廃合は、教育委員会が中学校1校、小学校3校という方針を決め、更に追い打ちとなるでしょう。

ここに、国及び地方の政治の役割が求められています。

秋の味覚、きのこが豊作... 松茸も採れた



今年の秋は、キノコの話が多かったが、地元のきのこ採り名人に様子を伺いました。

問 今年のきのこの採れ具合はどうでしたか。

答 早いきのこも遅いきのこも一緒にでていました。種類も量も豊作でしたね。シシタケが豊作でした。例年2~3本のところ、40~50本採れました。私も初めての経験で驚きました。

問 どんなキノコがありましたか。

答 一本シメジ、カキジメジ、シシタケ、アカモダシ、シロブタ、ササモダシ、アマタケ、ムラサキシメジ、ハツタケ、シロシメジ、カブシメジなど。

問 どんなどころにでていますか。

答 ほとんどが、山の北から西側。ムラサキは桜の木、ハツタケやアマタケは赤松、シメジは雑木林ですね。

問 味や香りで良いものは。

答 味はシメジ、香りはシシタケ。

問 この地区で珍しいキノコは。

答 シロシメジですかね。

問 松茸は採れましたか。

答 友人は5本採ったそうです。



口を開けたアケビ

一般質問から

渡辺：自治センターの課題と将来展望は
町長：運営の安定化を図り、物をつくり販売
地域自治協議会で防犯・福祉までを

渡辺 自治センターになって1年半が経過した。町民の十分な理解ができてのスタートでなかったが、現状と課題は。

町長 初年度は公民館事業をベースに、次第に町づくり事業をはじめています。利用者は20%増加しています。課題は高齢者の生きがいづくりや支え合いの地域福祉推進、主体的地域づくり、運営体制の安定化などです。

渡辺 順調にきたのは、自治センターや地域づくり推進課の職員、地区まちづくり委員の皆さんのご苦勞があったからでは。

町長 地域の皆さんが本気で取り組んでくれた成果と考えています。

渡辺 課題の解決に向けた取り組みの考え方は。

課長 時間をかけて、地域の皆さんが参加できる仕組みを作り、体制を固めていきます。

渡辺 自治センターの元気な地域づくりと町の産業振興への思いを伺います。

町長 自治センターは高齢者の生きがいづくりという視点で、町全体の産業振興は別に取り組みます。

渡辺：地区公民館の歴史をまとめて
教育長：2年か3年で努力する

渡辺 地区公民館の60年の歴史をまとめる考えは。

教育長 2～3年でまとめられるように努力します。

渡辺 教育委員会の支援や指導は。

教育長 講師派遣や職員の派遣・助言、資料の配付など行っています。

渡辺 町公民館位置づけと職員数は。

教育長 生涯学習の実施機関であり、館長1名です。

渡辺 公民館の充実を要望します。

第6次産業化とは



第1次と第2次、第3次産業をかけると第6次となる。つまり、第1次産業の農業が農産物の生産のみの担当から加工や製造、流通、販売、消費まで可能な限り農業に取り戻そうという考え方です。総業産業としての農業を目指すことによって、担い手の増大、雇用の拡大、所得の増大が可能となると考えられており、国や県も支援策を打ち出し、予算化しています。



多くの登山客で賑わう那須連邦の鞍部、峰の茶屋の避難小屋

渡辺：第6次産業化推進のため指導員の配置を
町長：検討します

渡辺 本町の農業は、40年前は総生産額の49.7%を占め基幹産業であったが、現在は町民の所得比で3.9%に下がってしまいました。しかし、第2次、第3次産業の所得も低下し続けており、農家が住み続けるためには農業振興が必要であり、今年の安い米価は追い打ちをかけています。町長の考えを伺います。

町長 非常に厳しいと認識しています。

渡辺 国は昨年12月に、県は今年の3月に、農業の第6次化推進を打ち出しています。町の取り組みは。

町長 今後、推進策や指導体制を検討します。

渡辺 第6次産業化の推進計画の策定は。

町長 前向きに取り組めます。

渡辺 指導体制の充実が大事、玉川村や平田村のように指導員を配置できないか。

町長 検討します。

渡辺 計画策定では観光事業との連携、5町村及び農協との連携、更に、減少している石川地方農業振興協議会への負担金増を要望します。



今年の米価…
大幅に下落。



今年は、作付けしているコシヒカリが、60kg当たり10,800円(昨年12,800円)、チヨニシキが8,600円(昨年12,200円)と大幅に下落です。平成8年産米は21,364円でした。

一方、60kg当たりの生産費(福島県19年産米)は14,234円と計算されています。労働費3,500円を除いても赤字で、肥料代や農薬代が払えない状況です。

畑は煙草、養蚕、家畜をやめてから、ほとんど山に戻りました。水田もこの状態では耕作放棄となるでしょう。借地して稲作をしている方も、返すしかないと話しています。耕作しなければ、ガマの穂が生え、柳の木が生え、湿地帯に戻ります。そして、ドジョウもタニシもいなくなります。米を作付けしなければ、後継者も、住む人も少なくなるでしょう。

一般質問から

小規模学校や複式学級のある学校に、教員等を配置し、支援を要望。
複式学級解消策は古殿町や平田村で実施、石川町の実施を望む。

渡辺 良さを切り捨てる学校統合だけでなく小規模学校及び複式学級への支援を行う必要があります。状況は。

教育長 教職員の合同研修会、児童の交流や宿泊学習などの合同開催、隣接校の交流、合同学習など支援しています。

渡辺 小規模校・複式学級のメリットとデメリットは。

教育長 メリットは先生が目が行き届くこと、デメリットは生きる力を育てるには極めて困難であること、自分自身を見つめ直すことが難しくなることです。

渡辺 大規模校と小規模校での学力は。

教育長 一概にどうのこうのということはありません。

渡辺 3学級以下になると、事務職員か、養護教諭かのいずれかの配置になるので、町での配置と複式学級解消のために古殿町や平田村のように町で配置を要望します。



10月頃、道ばたや日陰で咲くキバナアキギリ

子どもの未来のために

子どもたちの未来を輝かすために



先日、高校生の新規求人倍率が発表になりました。「33%」。ここ数年、若者がなかなか就職できない状況が続いています。自分の将来への希望を抱きながら、学習に励んできた高校生の思いを考えると、つらい気持ちになります。大学や専門学校も厳しいままです。

どんな時代に生まれるか誰も選べません。にもかかわらず、経済状況によって、子どもの未来がせめめられてしまうことは悲しく、改善できないものかと強く思います。どんな時代においても、子どもは社会の希望であり、すこやかに成長できる環境を整える責任が社会や大人にはあります。大人ひとりの力では就職率を上げることは難しくとも、その子の良さを認め、ほめることはできます。

厳しい時代だからこそ、子どもに投げかける言葉や行為は、温かいものであってほしい。ほめられて喜ぶ子どもの顔は本当に輝いています。そして、ほめる側の大人の顔もまた、優しく温かい表情をしています。今だからこそ、人のつながりや優しさを失いたくないと思います。(K・H)

21年度決算認定と消防自動車契約締結

教育委員近内光慶さんに同意

9月議会では、平成21年度の決算の認定、22年度の補正予算及び玉川村との水道相互給水協定による条例改正を可決、消防自動車契約締結を可決、「住宅リフォーム助成工事」の創設をを求める陳情を採択しました。

また、町財政の健全状況を示す指数が報告されました。実質公債費比率は17.9%（18.0を超えると借入に許可が必要）、将来負担比率は81.0%（基準350.0以下）と財政が改善されていることを示しています。



8月3日、議会のつくば市にある地質標本館の研修

可決された平成22年度補正予算（一般会計）…道路維持補修に1千8百万円を増額

今までの予算に101,714千円を追加し、予算総額を60億1千2百万円にするものです

主な歳入

- 町税 9,878 千円を減額
- 地方特例交付金（エコカー減税補填）
3,985 千円を増額
- 国からの交付税 18,494 千円を増額
- 県支出金（緊急雇用創設基金） 2,345 千円増額
- 寄付金（ふるさと町づくり応援） 859 千円増額
- 繰越金（21年度から） 111,532 千円増額
- 町債（借金） 25,468 千円減額
- 計 101,714 千円の増額

主な歳出（今回予算化されたもの）

- 分庁舎改修工事費 8,000 千円増額
- 課税・収納事務電算委託 4,836 千円増額
- 老人ホーム運営経費 3,527 千円増額
- 重度心身生害者医療費支給システム 2,573 千円増額
- 農業用水路整備費 2,500 千円増額
- 道路維持補修費 18,400 千円増額
- 総合運動公園整備費 12,000 千円増額
- 消防施設整備費 10,034 千円増額
- 小学校施設改良工事 5,600 千円増額
- 公民館施設改修工事 8,500 千円増額



平成21年度
町はこんな
仕事をしました

道路整備に2億8千万円 介護給付サービスに9億8千万円

大きな建設事業は

- 道路整備事業・・・2億8千3百万円
- 特別老人ホーム施設整備支援
・・・5千百万円
- 緑資源機構事業負担金・・・4千9百万円
- 観光街路灯設置工事・・・4千3百万円
- 道路維持補修費・・・3千4百万円
- 合併浄化槽設置補助金・・・2千2百万円

町営住宅の状況は

- 戸数284戸
- 解体2戸
- 入居申し込み24件
- 団地分譲(残7区画)
- 古館団地18区画
- 谷津団地36区画

保育所(4施設)では

- 入所児童 0歳10人、1歳20人、2歳26人、3歳65人
4歳103人、5歳95人 計319人(昨年333人)
- 土曜保育・・・13人 延長保育・・・2人 乳幼児保育・・・10人
- 障害児保育・・・2人 広域保育・・・3人

道路新設改良工事は

23地区で・・・2億3千万円

道路の測量設計委託は

町道13路線で
・・・2千9百万円

公民館図書室利用者は

- 蔵書数 3,1126冊
- 利用者 4,822人
- 利用冊数 8,975冊

町税は

- 納入額 16億5千8百万円
- 前年度比 △1億2百万円
- 税の種類は
- 個人町民税(7,970人)
- 法人町民税(458事業所)
- 軽自動車税(8,489台)
- たばこ税
- 入湯税(149,747人)
- 固定資産税(家屋、土地外)

特定検診の状況

受診者1,335人で、異常認めず41人、要指導250人、要医療756人、通院継続288人、そして、メタボリック症候群予備軍は227人、基準該当239人となりました。

入札で発注した工事等は

- 工事32件で 458,235,750円
- 委託等23件で 208,683,635円
- 水道9件で 59,255,684円
- 合計64件で 726,175,069円

介護保健事業は

- 介護認定審査会 71回開催
- 介護サービス給付 9億8千万円
- 介護予防給付 4千6百万円
- 施設入所者 33名

体育施設利用者数

- 温水プール 14,377人
- 総合体育館 45,861人
- 町体育館 5,858人
- 町民グラウンド 29,697人
- 武道館 3,458人



蔓に垂れ下がり咲くツルニンジン

石川中及び沢田中の費用(町分)

- 管理経費 55,986千円
- 内耐震補強計画作成委託 1,680千円
- 教育振興費 37,561千円
- 内理科教育設備整備事業 2,416千円
- 通学援助費 20,765千円
- 内スクールバス経費 14,941千円

◆南町に生まれ、中央画壇で活躍した洋画家 久野 修男(ひさの のぶお)◆

町歴民俗資料館2階に常設展示されている洋画の作者を紹介します。



修男は大正6年、石川町字南町に生まれ、太平洋美術専門学校に入り、本格的に絵を学ぶ。

二科展や航空美術展、陸・海軍美術展に出品し、招待出品、無審査出品となっていきます。昭和20年には東京大空襲で、石川町に疎開します。

戦後は、第二紀会の創設に加わり、同人となり、委員、そして、昭和52年には評議員に推挙されます。

中央では交友も広く、井伏鱒二や野村万蔵、宮城まり子、岡村夫二、檜山義夫、観世栄夫、桂ユキ子らと雑魚クラブを結成しています。

ある展示会のパンフレットでは巻頭文に、二紀会理事長の宮本三郎が一文を寄せています。

しかし、昭和43年には病氣療養を兼ねて、古町にアトリエを構えます。個展も銀座の画廊を中心

に多数開催し、昭和51年にはパリに外遊、52年に福島二紀会を結成し、初代支部長に就き、若い作家の育成に力を注ぎます。

55年には二紀会展で鍋井賞を受賞し、作品は福島県で買い上げました。

この年、修男は週刊読売の「天皇の料理番」の挿絵を一年間描き続けます。知る人によれば、食べるために絵を描くことはなく、特に、自己宣伝は嫌いであったといいます。

又、晩年は水墨画を好んで画いていたようです。昭和58年9月、古町の自宅で逝去、享年66歳。

町では作品51点をお預かりし、資料館で展示しています。